

2022 年度 「AI・データ活用力育成プログラム」 自己点検・評価 報告書

甲南女子大学 内部質保証委員会

2023 年 4 月 24 日

近年、デジタル技術の急速な発展により、コンピュータやスマートフォンから日常的にネットワークに接続し、あらゆる情報がつながっている時代を生きていく上で、AI やデータ活用の基礎的知識が今や「現代の読み・書き・そろばん」として文系、理系を問わず全ての学生に必須となっている。

そのような社会で求められる基礎的な知識を身につけるため、甲南女子大学では 2022 年度より、全学部の学生を対象とした「AI・データ活用力育成プログラム」を開始した。（プログラムの対象者は 2022 年度入学生から）

2022 年度の甲南女子大学「AI・データ活用力育成プログラム」の自己点検・評価は次のとおりである。

(1) 学内からの視点

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムの構成科目の一部である「情報とコンピュータⅠ・Ⅱ」は全学部 1 年次の必修科目であり、教務課が自動的に履修登録を行うことで入学者全員が履修する仕組みとしている。</p> <p>必修科目でない全学共通科目、例えば「統計学の基礎」においても、全学生に対して履修しやすい曜日時限で開講した。</p> <p>プログラム初年度受講科目についての履修率・単位取得率は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none">・「情報とコンピュータⅠ」：履修率 100%、単位取得率 97.3%・「情報とコンピュータⅡ」：履修率 100%、単位取得率 96.3%・「統計学の基礎」：履修率 2.3%(22 名)、単位取得率 86.4% <p>※本プログラムは 2022 年度から開始しているため、上記は 2022 年度入学生に関する数値となる。</p>
学修成果	<p>全学必修科目である「情報とコンピュータⅡ」において、学修成果の確認を目的に、第 7 回に中間課題、第 14 回に最終課題を実施した。中間課題では、10 点満点のうち、7 点以上の学生が 73.3%、最終課題では、20 点満点のうち、14 点以上の学生が 79.5%であった。7 割以上の得点者割合が増加しており、学修成果は授業が進むにつれて向上しているといえる。</p>

	<p>FD 委員会が後期末に実施した「授業改善のためのアンケート」によれば、「情報とコンピュータⅡ」>「この科目を受講して成長したと思うこと」の設問について、【パソコン等のIT技術】、【基礎的あるいは専門的な知識・技能】など、成長した能力を選択した学生は98%であったことから、シラバスに記載した到達目標がおおむね達成されたことが確認できた。</p>
<p>学生アンケート等を通じた 学生の内容の理解度</p>	<p>FD 委員会が後期末に実施した「授業改善のためのアンケート」によれば、「情報とコンピュータⅠ」>「授業の内容が十分に理解できたか」の設問について、【強くそう思う】、【ややそう思う】を選択した学生は88.8%であった。「情報とコンピュータⅡ」の同設問について、【強くそう思う】、【ややそう思う】を選択した学生は72%であった。</p> <p>「情報とコンピュータⅡ」は、「情報とコンピュータⅠ」と比較し、扱う内容の難易度が上がることから、「十分に理解できた」と回答した層がやや減少し、ここに改善の余地が見られるが、必修科目である「情報とコンピュータⅠ・Ⅱ」において、少なくとも受講者の7割以上は授業内容を理解していることが確認できた。</p>
<p>学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度</p>	<p>本プログラムで開講する「情報とコンピュータⅠ・Ⅱ」は全学必修科目であるため、本学に入学すると全員が受講しなければならない。授業内で本プログラムの周知を行っているため、後輩学生等への履修推奨の積極的な取り組みは実施していない。</p> <p>その他、プログラムを構成する科目について、2023年度より大学HP内に当該プログラムについての特設ページを開設し、学内に広報していくことでプログラムの認知度を高め、履修を促進していく。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に 向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>本学の当プログラムは1年次必修科目を含むため、履修者については1年ごとに確実に向上することが見込まれる。</p> <p>但し、本プログラムは必修科目の修得だけでは修了できないため、1年次必修科目「情報とコンピュータⅠ・Ⅱ」の講義内にて、当プログラムを積極的に告知することや、プログラムを発展させるための全学共通教育委員会を定期的実施し、その他プログラムを構成する科目の履修促進方法を協議・検討していく。</p>

(2) 学外からの視点

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
教育プログラム修了者の進路 活躍状況、企業等の評価	本学の当プログラムは 2022 年度から開始しており、現時点で修了者は存在しておらず、評価することができない。 2026 年度には、プログラムを修了した学生の進路について、キャリアセンターが実施している進路調査から把握する予定。 将来的には、プログラムを修了した学生が卒業し、就職した企業等から活躍状況・評価についてヒアリングを行う予定。
産業界からの視点を含めた 教育プログラム内容・手法等への意見	キャリアセンターと連携し、学内企業説明会等で協力関係にある企業から、本科目の意義や実施状況を踏まえた意見聴取を実施する予定。

(3) その他

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	必修科目「情報とコンピュータⅡ」では、初学者向けに編集されたテキストを用い、顧客分析、仕入計画など、専門分野によらず関心を持つ事例を用いて分析を行うほか、「AI で変わる私たちの暮らし」として、まちづくり、防災・環境、エネルギー、農業・食品など、身近な分野の事例を紹介している。また、「AI 時代に求められる人材」について理解を深めることで、自らが学ぶべき意義について再確認するようにしている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	必修科目「情報とコンピュータⅠ・Ⅱ」では、反転授業の要素を取り入れ、毎回事前学習課題に取り組む形式としている。教員は事前学習課題の提出物を評価し、理解が難しいポイントを特定して重点的に対面授業で解説するよう工夫している。 FD 委員会が各中間・期末に実施する「授業改善のためのアンケート」において、特に受講生が困っていることを把握したうえで、その後の授業に活用している。 前期、後期の授業終了後には、担当教員全員の振り返りを共有し、授業内容や実施方法を改善する取り組みも行っている。